

都市政策研究所
ニュース

THE NEWSLETTER OF INSTITUTE FOR URBAN AND REGIONAL POLICY STUDIES

初代、2代の大学附置研究所、その設立趣旨に回帰する

～都市政策研究所の成長期への移行をめざして～

終戦直後の1946(昭和21)年に小倉外事専門学校として産声をあげた本校が、北九州外国語大学(外国語学部)へと昇格したのがそのわずか4年後の1950(昭和25)年。以降60年の歳月を経た現在、本大学の歴史は人でいえば還暦にあたる。けだし還暦とは、その語源に曰く、60種類の組み合わせの干支が一巡して生まれ年に戻ることである。そこで小稿では、この間の2つの本大学研究所の生い立ちへと遡り、その設立趣旨を回顧、素描することにより、明日への歩みに資する原点回帰としたい。

まず都市政策研究所の前身となる初代研究所、つまり北九州産業社会研究所の設立は1959(昭和34)年であり、さすがに還暦には到達しないものの半世紀前のことであった。初代は、研究所規則の第1条で、「北九州の産業、社会の諸問題につき総合的調査研究を行うことを目的とする」ことを明記し、コンテンツとなる業務規定には、1. 北九州の産業及び社会の実証的調査研究、2. 調査研究に必要な文献及び資料等の収集整理、3. 調査研究成果の発表及び機関紙の刊行に関する事、4. 研究会、講習会及び講演会等の開催に関する事、5. 官公庁、団体、会社その他の委嘱による調査研究に関する事、などの遂行が要諦とされた。研究所紀要第1号(1960年)の業務要録をみると、「(略)… 研究所の性格について特色を要言するならば、北九州を地域的に対象としていることと、地域の

有識経験者の参加による諮問機関をもっていること。即ち学術的研究調査を通し、地域社会と積極的協力関係にあることと思う」とし、地域貢献がすでに大きな使命として謳われている。また、諮問機関とは商議員制度であり、研究所と地域社会の紐帯として制度は民間、行政を巻き込む画期的な取り組みであった。初代所長、堀家信雄が紀要「創刊の言葉」の中でこのことを強調している。さて、2006年の都市政策研究所の設立趣旨は、もちろん地域連携拠点が理念の筆頭であることは論を待たない。ただ「総合シンクタンク」として近年の最大の悩みは受託調査の受託環境の悪化である。民間のみならず市場価格破壊の波は公的セクターにも及びつつある。だがそれだけではない。外部人的資源の新たな活用も俎上に載せるべきであり、例えば市民研究員などの制度設計も課題である。行動経済学にいう『現状維持のバイアス』を改める蛮勇が今求められるようだ。

“自分の過去と他人は変えられない。変えられるのは自分自身と、自身の将来である”。ここで言う「自分」とは、もちろん第2期中期計画の策定に取り組んでいる都市政策研究所のことである。6年目を迎える次年度、これまでの導入期から成長期へと飛躍すべきコンテンツを決める時期に入ったことだけは確かである。

(都市政策研究所 教授 神山和久)

地域活動活性化を阻害する要因について考える

都市政策研究所 教授 石塚 優

1 共同体が持っていた機能と背景

地域活動活性化とは良く聞く言葉ですが、それがどのような状態を指しているのかは不明です。19世紀末のゲマインシャフトや20世紀初頭のコミュニティの特徴として指摘された、近隣による支え合いや相互扶助を活発に行うようなまとまりを指しているのであれば、当時の単一の仕事、職住一致、われわれ意識（同一化の意識）、役割意識（位置ないし持ち場の感情）、依存意識（物的依存、心理的依存）等の地域社会感情、地域性（人々はコミュニティの一員として常に地域上の特定の場所を占める）のために共同体の範囲が明確であったが、今日では大きく変わっています。

2 今日の居住地の関係

今日では交通手段の整備により領域性は意味をなくし、職住分離で家には休みに帰るだけ、賃金生活で居住地の人の共同は不要など、職業、出身、価値観、趣味、関心等を異にする多様な生活様式のもとでの混住です。そこに例外なく存在し、自動加入の形態をとり、日常生活の危機を切り抜ける相互扶助の自治組織として包括的機能をもつ町内会（自治会）は非常に高い組織率の反面、内容は空洞化しています。住民の参加意識は低く、行政組織・制度の確立、専門的サービス・システムの発達により、中核機能（共同性）を失い、防犯・防災・共同募金等の行政の末端下請機能しか持たなくなっているとも見えます。また、末端下請補完機能のみではリーダーは育たないため、役所の依頼を形式的にこなすだけになっています。共同の意識を高めようという気持ちはあっても、その手段

や組織として町内会と関わることを避け、私事化が進んだ地域生活では町内会は多くの人にとって「わずらわしい」だけの存在でしょうし、図1に示すとおり、近所の人との付き合いの多くは「あいさつ程度」「立ち話程度」になっています。このようにまとまりに欠けて自発性に乏しい組織と化した町内会は「仲間」「共同体」などの連帯感やアイデンティティを実感できる機能はありません。

3 地域のまとまりの阻害要因

家族機能・共同体機能は利便性の向上に伴う専門的サービスとして分割し細分化され、商品化されるなど外部化が進んでいます。教育産業、レジャー・外食産業、電話相談は核家族化とともに隆盛し、血縁・地縁による相互扶助関係を一見不要にし、地域や隣人への無関心と生活の私事化を促すことにつながります。最後に残るであろうとされた調理でさえもコンビニ弁当、スーパーの惣菜など家事の合理化がすすみ、外食産業で家族の団欒を購入する（商品・金銭関係に支えられた生活）ことになります。

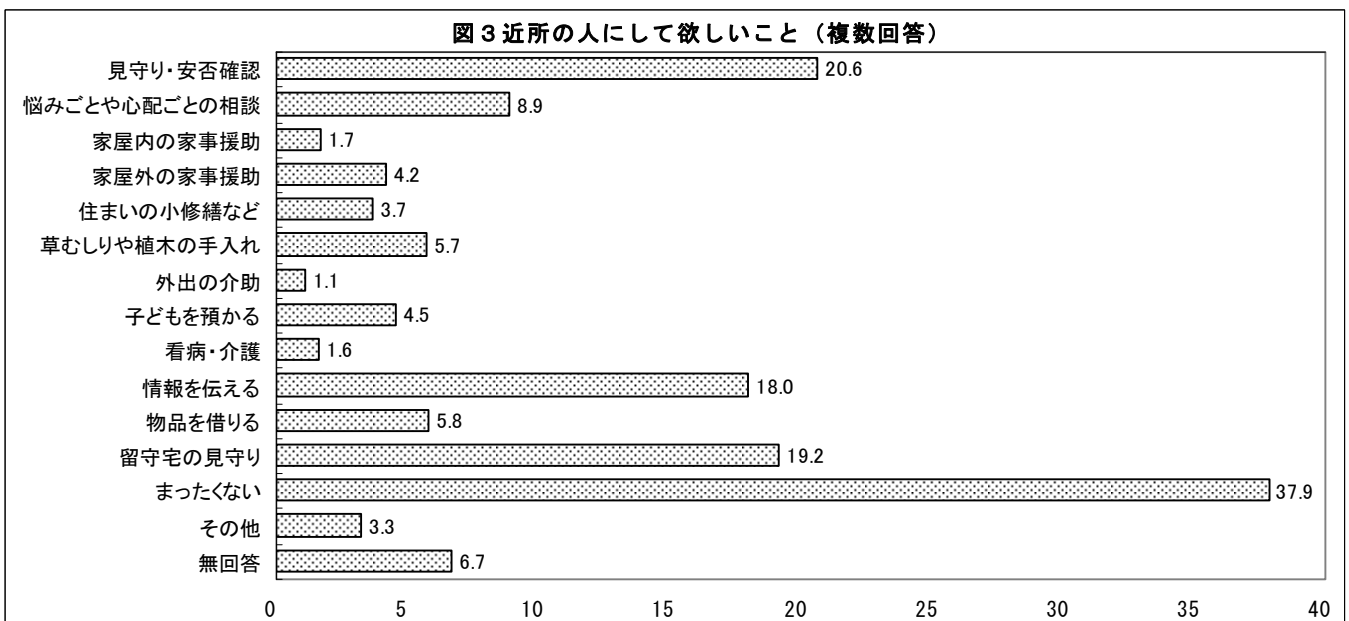
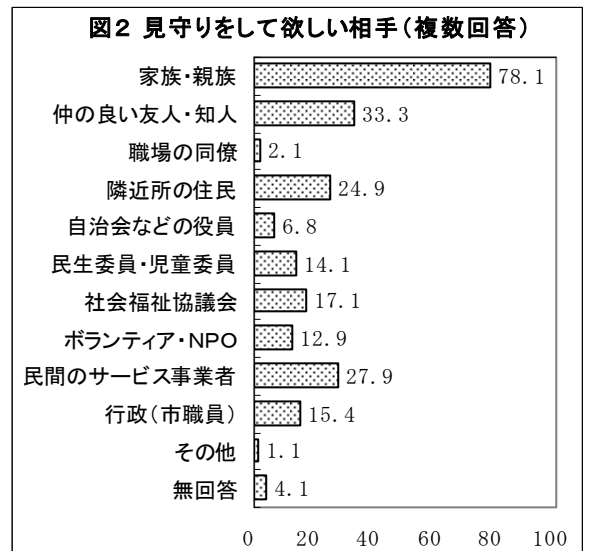
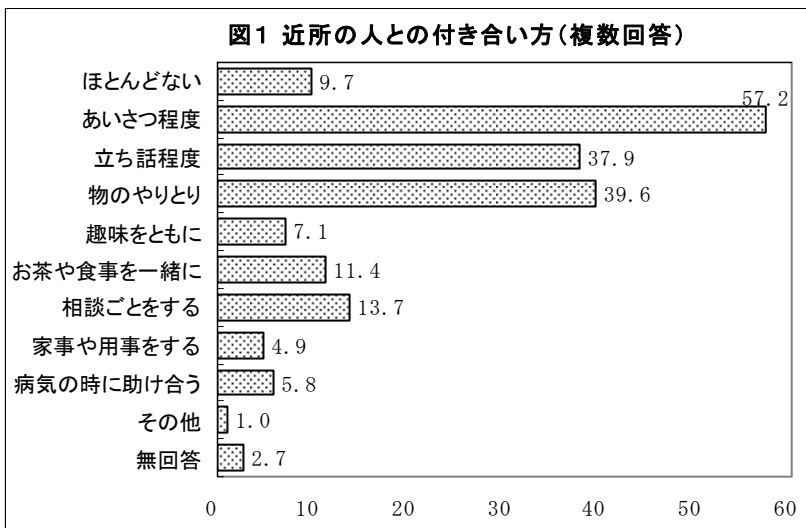
このようなことにより日々の生活と結びついて作り出され、継承されてきた生活能力や知恵、それらの総体としての地域文化が衰退します。また、福祉サービス等の充実により他者や物の世話になりたくないという意識も強く、家族・親族を除くと、近所の人の見守りよりも人格要因の介在しない「専門」機関からサービスを購入する（行政によるサービスや商品・金銭関係）方を選ぶ傾向があります（図2）（図3）。しかし、専門機関は電球の取り替え、ゴミ出し、庭の草むしり、単身高齢者が入院中の飼い犬の世

話等の些細なニーズや個々の事情に応じたサービスを提供する訳ではなく、このような専門的サービスがあるために孤立したり、そのサービスの画一性のために不満をいなく危険性を持っています。

このような危機感から地域活動活性化が唱えられるのですが、図4に示した「地域における支え合いについての考え方」では「重要・大切」と考えている人が大部分を占めています。一方、実態として「近所の支え合いの感じ方」（図5）からは「感じられる」「どちらかといえど感じられる」を合わせて5割以下です。考え

方と感じ方が一致しない要因としては「私事化、専門分化し細分化され、商品・金銭関係に支えられた生活」「職住分離による居住する地域への関心・意識の低さ」「混住によるまとまりの薄さとまとめるリーダーの不在」「共同関係を作る機会や必要性の欠如」「情報の不足」等を指摘できます。単純な調査結果のみで見てきましたので、今日、地域に求められる機能と考えられる①防犯・防災、秩序ある安全で快適な環境の維持、②精神的健康等は別の働きにより充足されているのかも知れません。機会があれば詳細に検討したいと考えています。

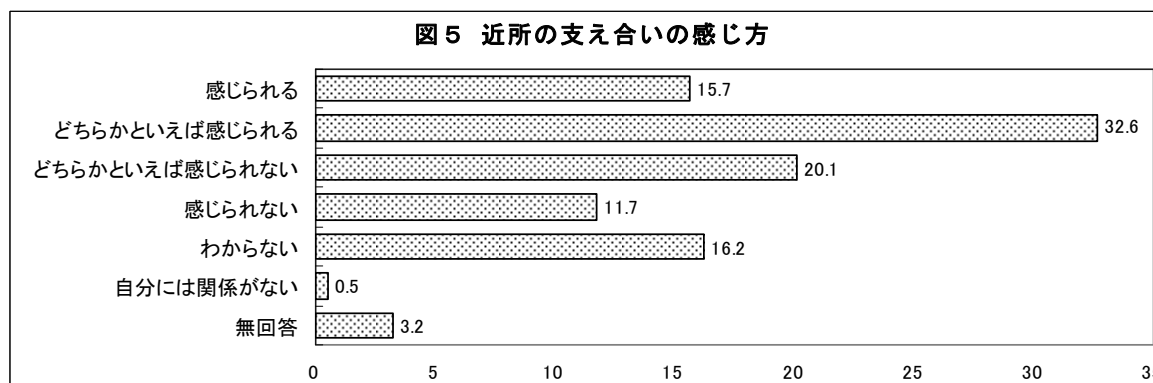
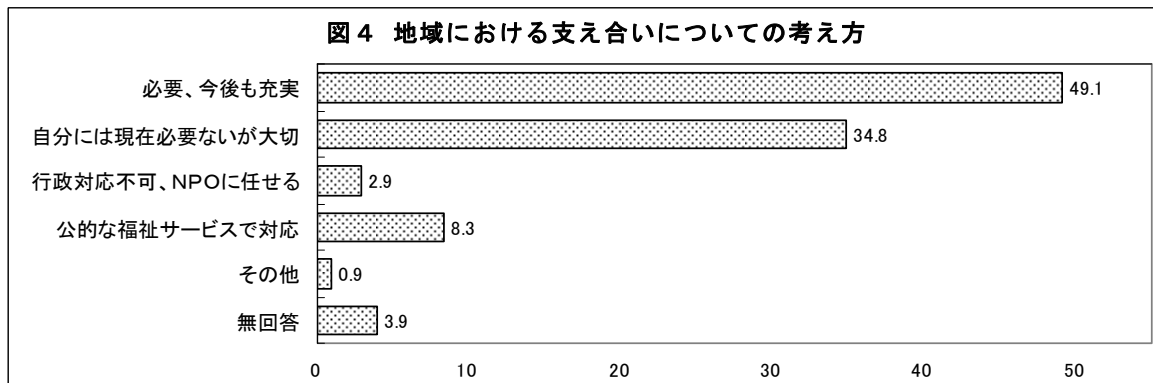
資料



(図は北九州市保健福祉局「北九州市地域福祉に関する調査報告書」2010.5より)

(4面に続く)

(3面から続く)



事業日誌 (2010年7月～9月)

■研究会など

- ・地域づくり研究会：7/4、7/31、9/25

■講演、シンポジウム、学会など

- ・東谷地区まちづくり講演会：9/7
- ・経営工学国際シンポジウム2010：8/26～28

■出張、視察対応など

- ・自転車タクシー調査（ドイツ、フランス等）：8/16～25
- ・日本建築学会全国大会2010（富山大学）：9/9～11
- ・函館国際水産・海洋都市構想調査：9/29～30
- ・フィンランドの産業クラスター調査：8/17～24
- ・ベトナム・ハイフォンとの産業経済交流に係わる調査：7/13～20

都市政策研究所資料室・新着図書

- ・情報通信白書 平成22年版
- ・通商白書2010
- ・国土交通白書2010
- ・高齢社会白書 平成22年版
- ・観光白書 平成22年版
- ・土地白書 平成22年版
- ・経済財政白書 平成22年版
- ・平成20年 工業統計表 産業編
- ・平成20年 工業統計表 品目編
- ・平成20年 工業統計表 市区町村編
- ・都市データパック2010年版
- ・地域経済総覧2011年版

[編集・発行]

北九州市立大学 都市政策研究所

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1
 Tel: 093-964-4302 Fax: 093-964-4300
 E-mail: toshiken@kitakyu-u.ac.jp
 URL: <http://www.kitakyu-u.ac.jp/iurps/>

NEWSLETTER No.54

10.1.2010

INSTITUTE FOR URBAN
 AND REGIONAL POLICY STUDIES,
 THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU,
 KITAKYUSHU CITY, JAPAN